

# 一般質問

任期最後の一般質問にたった田口寿宜議員は、地域防災問題、真崎議員は、「ずっと暮らし続けたい地域づくり」をテーマに質問を展開した。

門脇議員は、最後の質問で門脇市長の行政運営の考え方を質した。

八柳議員は、緊急経済対策支援について、浅利議員は、旧角館町国保会計の過小課税問題、狐崎議員は明日の高校を考える市民会議について問い質した。田口喜義議員は、市立病院や市民生活の問題点、小田嶋議員は福祉施設の民営化問題、田口勝次議員は「高齢化の進むまちづくり構想」をそれぞれ質問した。

## 防災意識の向上策を問う！ 地域防災組織を育成する



田口寿宜

質問 有害鳥獣による事故防止対策強化と共存の取り組みについて伺う。猟友会員の減少や高齢化、若い会員の加入促進が必要だ。地域住民が安心できる環境づくりは森林の手入れ等自然環境を整えるべきと思うが市長の考えはどうか。

答弁 新たな資格取得は難しくなっているが、新規会員の確保が必要と考える。猟友会と話し合いながら有効な手立てづくりを考えたい。指摘の通り山が荒れている。熊の生息環境を整えるためには人間との共生を常に考える必要がある。危険な際は命を守る対策を講じなければならぬと考える。

質問 異常気象によるゲリラ豪雨、そして地震、私たちは常に災害と背中合わせの生活だ。災害から身を守るため地域防災力を高める必要があると思う。具体的な防災意識の向上策について伺う。またかつての生保内川の水害を風化させない取り組みをお願いしたい。

答弁 異常気象の発生は温暖化に起因していると思う。仙北市としては昨年10月各家庭にハザードマップを配布している。現在381の町内会があるが、自主防災組織を持つているのはわずか29町内会である。これを今後行政との連携で、消防団の協力を得て、地域防災組織を育成する対応策に努めたい。



舞台となった湖畔の宿

有事に備え、全地域に情報伝達の一齐システムを整備し、市民の要望が強い「安全・安心」に対する不公平を是正したい。

## 仙北市の観光のあるべき姿は 観光で潤う町に理解を



真崎寿浩

質問 一人ひとりが観光に関わり担う、という意識を持つことが大切である。観光に携わる住民以外は、観光のまちである事に対する認識が不足している現状において、すべての住民が地域のよさを

理解し、ここに住む喜びが無ければ、観光客に対する「おもてなし」の気持ちは生まれてこないと思う。

質問 観光に対する住民の意識を変えていく必要があると思うがどうか。

答弁 多くの観光客が仙北市を訪れることによって生まれる雇用拡大や税収増加などの波及効果については、観光に携わる方々以外は、そのことを

る。若者が働く場所を作ることが課題である。

アンケートによると65%の若者が出会いの機会が少ないと答えている。仙北市としても出会いの機会を創出する取り組みに努めたい、出会いとなるイベントやメールマガジンの活用なども創出したい。

次世代の育成策として、子育て支援を強化したい。特に仕事と育児の両立に向けた取り組みをする決意だ。

質問 観光振興について伺うが、韓国ドラマ「アリス」の放送により、各国から多くの観光客が訪れている。これをビッグチャンスとして、仙北市が一体となって積極的な取り組みが必要でないか。

答弁 ドラマの視聴率40%を超える大ヒットである。

韓国からの日本を訪れる観光客も大幅に伸びている。アリス効果を活かして仙北市を売り込みたい。この機会を逃さずに官民協働で取組みたい。また外国語セミナー等も始めたい。

認識している住民は多くはないと思う。

市民一人ひとりが、仙北市を「観光のまち」として認識し、自分たちも観光に関わり、担うという認識を持って、「おもてなしの気持ち」を常に念頭において観光客と接していただくことが、市民全体が豊かになる観光で潤う町につながることを理解していただきたいと考えている。

**質問** 仙北市の基幹産業である農業と観光の結びつきはまだ希薄と思うが、観光施設でのご飯が全て地元産の米を提供するなど、「食」にこだわりを持つことによる観光地としての特色づくりをしてはどうか。

**答弁** 市内飲食店や宿泊施設へのアンケート調査においても、地産地消に對して割の方が「関心がある」と答えている現状を踏まえ、今後その関心があるという方に対し、如何にして地産地消を進めるか、総合産業研究所が主体となり検討していきたい。

**質問** 抱返り溪谷は年々



整備続行を望む抱返り遊歩道

観光客が増加し、秋の紅葉シーズンにおいては、

交通渋滞が発生するなど、観光客に対する受け入れ体制は改善の余地があると思うがどうか。

**答弁** 現在、観光客の車両を受け入れる駐車場として整備する場所が付近にはないことから、交通渋滞は緩和できない状況である。

今後とも公共交通機関の利用を促進することにより渋滞の緩和を図り、来てよかったと思われる観光地づくりを推進していく。

**質問** 遊歩道は夏瀬温泉まで全線開通をとの要望が出されているが、今後

の計画は。

**答弁** 早期着手について、秋田県に働きかけをしている整備事業費が15億円にもなると言うことで、要望には応じられないとの回答だ。

**質問** 観光客に対し安心安全な観光を提供するためにも市道夏瀬線の改良は必要と思うが、今後の整備予定は。

**答弁** この道路改良は多額の費用がかかるため市の単独事業では厳しい。国の補助事業も難しいとの考えでいる。

危険箇所については局部改良などを施し、維持管理については万全を期したい。

## がんばる若者の要望になぜ応えない！ 行政は全力で取組む



門脇健郎

指定管理者の選定は本市の条例上公募が原則であり、公平な募集を行ったと考えている。

**質問** 湯前山の観光施設の指定管理者指定の再募集の進め方は、観光立市をめざす行政のあり方として納得できない。この施設は地元の観光施設を地元で運営する方法は考えられなかったか。市長の見解を聞きたい。

**答弁** 取り組みの経緯からいって、公募や再公募に係る一連の手続きや業務内容は適切に行なわれたと認識している。

**質問** 湯前山の観光施設の指定管理者指定の再募集の進め方は、観光立市をめざす行政のあり方として納得できない。この施設は地元の観光施設を地元で運営する方法は考えられなかったか。市長の見解を聞きたい。

**質問** 人口減少が著しい仙北市において、若者の定住は全ての施策の原点である。ここに定住してがんばっている若者は仙北市を担う人達でもある。

この若者たちが要望することに仙北市としては優先して応えるべきでないか。

**答弁** 若い方々の夢や希望をかなえるために、行政は持っているすべての機能を発揮しなければなら

らないという考えである。

定住人口を増やす思索については、雇用問題や子育てなど幅広い政策や施策に取組んでいる。また仕事以外のスポーツや趣味、家族と過ごす時間等ワークライフバランスに若者の意識を取り入れることを考えている。

若者の定住対策としてどのような方法、手法が良いか検討していきたい。

**質問** 高齢者の生きがい対策についてお伺いする。先人の方々の業績が礎となって、今日の仙北市があることを忘れてはならない。しかしながら予算や事業計画をみると、そのことを感じさせる施策は見当たらない。

市長は高齢者の生きがい政策のあるべき姿をどのように考えているか。

**答弁** 地域の礎である高齢者の皆さんを敬うことは重要で大事なことです。が、想いや気持ちを表すことが難しいことでもある。敬老思想をいっそう普及する啓発事業に今後取り組みたい。また安全安心なまちづくりを散歩



部内検討を続けているクリオンスプールの改修